

会 議 録

会 議 名	平成 29 年度 第 2 回みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会
日 時	平成 29 年 12 月 5 日（火）午後 1 時 00 分～午後 5 時 15 分
会 場	美濃加茂市生涯学習センター203 号室

●参加者（敬称略）

<ビジョン懇談会委員・アドバイザー>

- ・加藤武志（会長）
- ・高嶋 舞（副会長）
- ・岸田真代
- ・林 尚史
- ・加藤慎康（美濃加茂市まちづくりアドバイザー）

<実施主体関係者>

- ・坂祝町 【こども課】山口哲司
- ・富加町 【半布里】井島実香 【産業環境課】細井直人
【教育課】島田崇正
- ・川辺町 【川辺ポートコミュニティ】杉山 洋、山田政廣
- ・七宗町 【若葉会】塚本照通
【でか金倶楽部】長良和士
【飛騨川流域まちづくりの会】井戸和就、井戸松男
- ・八百津町 【RAINBOW CHILD 2020 実行委員会】西田優太
- ・白川町 【白川町観光協会】鈴木雄二、藤井宏之 【企画課】今井秀明、村上健太
- ・美濃加茂市 【産業振興課】山田智也
【農林課】山田夕紀
【土木課】大塚雅之、小栗朋子
【秘書広報課】西村小百合
【環境課】岩田佐江子

<町村定住自立圏担当者>

- ・坂祝町 【総務課】野村浩貴
- ・富加町 【総務課】中村泰裕
- ・川辺町 【企画まちづくり課】馬場 誠、林 正和
- ・七宗町 【企画課】佐伯義則
- ・八百津町 【総務課政策調整係】日比野将明
- ・白川町 【企画課】山下直紀、藤井悠里
- ・東白川村 【総務課】安江透雄

<美濃加茂市・みのかも定住自立圏推進本部>

- ・【みのかも定住自立圏推進室本部（美濃加茂市市民協働部長）】大畑英樹
- ・【定住自立圏推進室】渡辺春文、佐合芳文、村雲洸佑、川上明里

- 議 題
1. 開会（あいさつ）
 2. 懇談会（1事業15分）
 3. あいさつ
 4. 閉会

●発言内容（要約）

< 1. 開会 >

（市民協働部長）

年の瀬、委員の皆様には遠方よりご出席いただきありがとうございます。本日は市長が体調不良で早退したため、代わりに務めさせていただきます。

さて、本日は対面式で委員と担当者の距離が近くなるようセッティングしました。今まで全体での会でしたが、本日は事業ごとに15分ずつ設け、担当者に第2次共生ビジョン中間年として進捗を報告していただくと共に、今後の展開に向けて話をさせていただきます。

第3次共生ビジョンも継続して実施する予定ですので、その点も踏まえ、本日は長時間となりますが、委員の皆様には忌憚ない意見をいただけますと幸いです。

< 2. 懇談会 >

■みんなで子育て応援事業（主体：坂祝町 こども課）

【報告内容】

- ・昨年度同様、子育て支援に携わる人材の育成をするため、2種類の連続講座を開催した。
- ・定員20名の講座だが、受講人数が伸び悩んでおり、周知方法に検討が必要と感じている。

【協議内容】

（高嶋委員）

そもそも論として、この事業はどんな困り事があって立ち上がった企画なのでしょうか？

（担当）

近年核家族化が進み、若い世代は子育ての知識をインターネットから集めてくるようになりました。しかしこうした情報は膨大で多様化に富み、正確ではない知識もたくさんあり、情報が偏っています。そうしたことから、子育てに必要な基礎を学んでいただくため、ママ業パワーアップ講座の企画を立ち上げました。

また、町主体のイベントをはじめとし、最近では子連れで参加することが難しいとの声があり、託児ボランティアの需要が高まっていることから、託児ボランティア育成講座の企画が生まれました。託児ボランティアの担い手を増やすことで、若い子育て世代も家から出やすくなり、託児ボランティアも子育ての先輩として社会に参加することが出来ます。

（高嶋委員）

受講者が伸び悩んでいるということは、やはりニーズの不一致か中身に問題があるのだと思います。私は今、子どもを3人育てています。たしかに知識の偏りについてはそうかもしれませんが、基礎的な情報と言われて

も、それを知らないとなぜ困るのか、その需要が思い浮かびません。

また、現代の女性は一人であれもこれもこなす中、「ママ業をもっとパワーアップさせなければいけないのか」という心の負担にもなりそうな印象を受けました。

また、講座内容についても、あれもこれもと総合的な知識を発信するのではなく、より具体的な内容にしてみてもどうでしょうか。というのも、あれこれ総合的だと、受講対象者となる人が自分事として見られないのだと思います。

また、子育て中の女性を対象とし、悩みを相談できるような場を設けるなど、子育てに困っている人を外に出せる工夫があると良いと思います。

(岸田委員)

私もこの講座内容には違和感を覚えています。男女共同が叫ばれるこの世の中で、今時どうして母親にだけ限定した講座を開くのでしょうか。むしろ父親が子育てに参画してもらえよう、父親を対象とした講座内容にすべきではないでしょうか。

女性の活躍を目的にしているのであれば、時代に逆行しているように思います。

(加藤委員長)

今年度の両講座の参加者は何人だったのでしょうか？

(担当)

「ママ業パワーアップ講座」が11名、「託児ボランティア講座」が9名でした。

(加藤委員長)

女性二人の委員から同意見が出るということも含め、時代に合っていないのでは、と感じます。私も娘を持つ父親として想像してみると、やはりこの講座には魅力を感じにくいと思います。総花的だと内容が薄くなってしまふというデメリットもあります。

とある企画で、子育て中の女性に集まって話し合う場を設けたところ、彼女たちが抱えている悩みや本音を聞くことが出来ました。ネックになっているのは短時間勤務が可能かというところで、今の世の中ではそれを受け入れてくれる企業は少ない。では、自分たちがそんな企業を作ればよいと、そのワークショップの中で起業のアイデアが出てきました。このように当事者に自ら考えてもらう方が、ニーズがより分かります。実際に子育て中の女性を集める事は難しいのですが、そこは行政自らが出かけて実施してほしいと思います。

(担当)

そうですね。

つい先日、今年全ての講座が終わり、アンケートを取ったところ、この講座のこういうことについてもっと詳しい話が聞きたかった、という意見がありました。また、子どもの心理学を学びたいという声など、来年度の講座ではこういった意見に沿う内容を取り入れたいと思います。

(高嶋委員)

働く女性を本当に増やしたいのなら、今の支援プログラムを拡大していくことについて、検討してほしいと思います。

(加藤慎康氏)

坂祝町ではマルシェを開催していませんか？ あのような場所は女性も集まりやすいので、そういったときに子育て中の女性を集めて、ニーズの把握をしてみてください。

■「織田信長の東美濃攻略」を活用した歴史PRマンガ作成事業（主体：富加町 教育課）

【報告内容】

- ・マンガ「夕雲の城」を舞台にした講演会を開催した。タウンホールとみかで11月23日に行い、12月の11日・12日には美濃加茂市蜂屋小学校、坂祝町学校、富加小学校でも実施する予定。
- ・12月10日に、ゆかりの地をめぐるツアーを企画したところ、60名の定員に対し100名の申込みがあった。
- ・OKBの協力で、名古屋駅に所有するOKBハーモニープラザにて、歴史探訪セミナーを開催する運びとなった（月1回で11月～1月まで）。ここでは展示も設けてもらうことができ、このセミナー参加者のうち10名が、ツアーにも申し込んでくれている。
- ・富加町の小中学校では、自分が進める本を紹介する企画があるが、そこでこの夕雲の城の名を題材に取り上げた生徒がいた。
- ・波及効果として、本の有償販売が1,500部を突破し、山城を題材にしたイベントに勧誘されたり、マンガの著作を整理したことで地元の酒屋がオリジナルの吟醸酒を商品化したりと、効果が広がっている。

【協議内容】

(林委員)

事業成果の「交流人口」は、どのように集計しているのですか？

(担当)

出前講座という、住民(学校等)からの依頼で、学芸員がマンガ事業に関する説明を行う講座の参加人数や、OKBハーモニープラザでのセミナー参加者等を集計しています。これは町内外合わせてカウントしています。

(岸田委員)

小中学生へのはたらきかけは、他にどんなことがありますか？

(担当)

美濃加茂市、富加町、坂祝町の全小中学生に無償で1冊ずつ配布しています。また、各学校へ出前講座に出かけるなどを行っています。

(岸田委員)

有償販売用の本は、例えば本屋に置くことはしないのでしょうか？

(担当)

本屋には置いていませんが、郵送での対応はしています。実際にこの地域に来ていただくことを狙っています。ちなみに販売数が一番多いのは富加郷土資料館です。

(岸田委員)

このご時世なので、ネットでの販売を検討されてはどうか。買って読んで、その上でこの地域に来てもらえるような工夫をする、という手もあります。

また、学校への出前講座は、せっかくですので依頼を受けてからではなく、積極的に行っていくのはどうでしょう。

(担当)

出前講座については、今年度2校から依頼があり、実施しました。私はそのうちの1校を担当したのですが、図書室で開催し、9クラスが入れ替わりで話を聞くという状況でした。もう1校は全校生徒を一堂に集めて実施したようですが、それはそれでいくつか説明が難しい場面があったようです。とはいえ、いずれも子どもたちの反応は良く、低学年の生徒でも内容を把握できているようでした。

(加藤委員長)

1日で9回というのは、大変そうですね。それならば、語り部のグループを作ってみる手もあります。

(岸田委員)

そうですね。高校生も巻き込んで、一緒に実施できると良いと思います。

(高嶋委員)

この地域の歴史を語れる子がいるようになれば、地域に根づいたと言えると思います。

(加藤慎康氏)

初級編は高校生などの語り部グループが担当して、もっとコアな話は島田さんをはじめとした学芸員が担う等、段階を踏んで知識を上げて行けるような工夫があると良いと思います。これは市側の課題ではありますが、今、この事業を担当しているのが文化振興課なのですが、これをまちづくりの分野に持っていく事ができれば、坂祝で開催する時に加茂野町住民にも呼びかけるなど、他の地域も巻き込みやすくなると思っています。

(高嶋委員)

お酒の商品化の話はよい流れだと思います。しかし、こういったものは仕掛けて行かないと続きません。子どもたちにどんなこととコラボできるか、案を一緒に考えるなどをすると、住民の理解も深まっていけると思います。

また、信長というブランドを掲げてイベントを開催する地域は、全国でたくさんあります。そういった地域を集めて「うちの信長自慢」など、サミットを開催すると面白い取り組みになりそうです。

(加藤委員長)

事業進捗評価シートで、美濃加茂市は「新しい公共」に対して他の町より点数を低く付けていますが、この理由は为什么呢？

(担当)

それは、行政が主体となって実施しており、民間団体等が主で実施していないからという意味です。

(加藤委員長)

同じく評価シートで美濃加茂市の自由意見では「事業が好評なあまり張り切りすぎて多くの事業を行うと、本来の業務に影響があるので」とありますが、個人的にこういった歴史等の周知活動は、学芸員の本業のように思います。確かに1校で9クラスも実施するとなると大変かもしれませんが、頑張っしてほしいと思います。

(加藤慎康氏)

織田信長と言えば、先日、美濃加茂市内在住の住民から明智光秀の書状を市に寄贈したというニュースがありました。このマンガ事業をきっかけに民家の蔵から堂洞軍艦記が発見されたなど、口伝の裏付けになるような歴史的発見があったなど、広がりを見せています。

■ボート王国プロジェクト事業（主体：川辺町 川辺ボートコミュニティ）

【報告内容】

- ・平成30年度はデッキの修復や駐車場の塗装を優先し、研修では全日本級の講師を招聘する計画を立てている。
- ・行政側から厳しい意見をいただいているが、正直これには納得がいかない。なぜなら、今年度行った研修会でのアンケートでは、参加者から良い評価を多分にいただいているからである。中高生、大学生、一般の大人等、参加者は幅広い年代が参加している。

【協議内容】

(加藤委員長)

研修で「新入部員基礎編」の1と2がありますが、対象者は同じでしょうか？

(担当)

いいえ、全て違う生徒です。

(岸田委員)

研修に参加した人からの評価が高いのに、事業進捗評価シートの点数が両自治体とも低いのはどうしてでしょうか？

(担当)

分からないのです。私たちは、行政では呼べないような有力な講師を招いています。レベルも高く、研修参加者側から研修に対する評価も良いのです。それを知っていただきたかったのが、本日はアンケートをお手元に用意しました。

(岸田委員)

それであるならば、このアンケートをもう少し分析された方が良いと思います。比率や統計、参加の回数等、分析できる項目はたくさんあります。そういった物を集約しないと、全体でどうなのかが見えてきません。アンケートで裏付けられるのであれば、具体的にそれを示した方が良いと思います。リピーターが多ければそれは研修内容に対する評価になりますし、新規参加者が多ければボート人口が拡大しているという説明ができると思います。

行政の点数については、これはボート人口の拡大に対しての評価であり、目的と実施内容が違うから評価に表れているのではないのでしょうか。

(加藤慎康氏)

アンケートを見ると良い研修なのだと思います。しかしボートを広めるための広報活動や、関わるボランティアを作れているのでしょうか？

(担当)

事業内で、コース作りや審判を務めてくれるボランティアの育成にも取り組んでいますが、今年は大会が天候によって中止されてしまい、コースを作る事もできませんでした。

かねてから、指導員やそのボランティアが不足していることは課題だと思っています。

(加藤委員長)

私もこの報告には違和感を覚えています。アカデミーとして研修の内容は良いのですが、研修だけが目的ではありませんよね？ この事業はボート＝川辺町というブランディングを作ることが目的であり、研修はそのツールであると思います。評価に対して行政と団体の意見が乖離していることは大問題だと思います。求められる事やそのやり方が合っていないことでもありますので、行政とよく話し合い、これをきっかけに見直してほしいと思います。

(高嶋委員)

団体と行政がそれぞれ役割を分担した方が良いと思います。例えば米国シリコンバレーはとても発展している地域なのですが、ベンチャーをサポートする人も同時に多くいます。街の魅力とは、それに対する良い環境でもあります。コースやトレーナーは勿論、食事を提供する栄養士、宿泊を提供できる施設等、間接的に関わる人たちをどう作っていくかを、広い目で見られると良いと思います。

(担当)

そうですね。直接的に関わらない一般の人を巻き込むことの重要性は理解しています。しかし、結果に結びつかずにいます。

目下、私たちが担わなければならない専門知識を持った人材を増やすことさえ、この地域では担い手が居ない現状です。

(高嶋委員)

専門家の所在については、圏域周辺にこだわらず、関市や岐阜市周辺まで広げてみてはどうでしょうか。そういった専門家を川辺町に集約させることも、町の魅力につながると思います。

(加藤委員長)

専門的な人材とそうでない人を呼び込む方法は、どちらもさほど差は無いと思います。あまり隔てず、行政と実施側がその役割を分担し、一緒に良い方法を考え、立ち位置を確認してほしいと思います。

【報告内容】

- ・今年も予定通り8月11日に開催できたが、あいにくの悪天候で、来場者やチケットの売れ行きが想定よりも低かった。
- ・来年度は美濃加茂市からの参加者を増やすため、市内で活動するダンスサークルを招く等、美濃加茂市民も来てもらえる工夫を取り入れたい。
- ・ツアーは残念ながら参加者が居らず、未実施となった。需要やPRの方法について再検討したい。また、定住のブースについても人気が高く、ブースを盛り上げる工夫も必要と感じている。
- ・平成30年の実施費用はクラウドファンディングの導入を考えており、八百津町の特産品をつけることで、イベント当日以外でも町の物産をPRできるようにしたい。

【協議内容】

(高嶋委員)

町の人の反応はどうでしたか？

(担当)

3日前に周辺の住民へあいさつに回ったところ、「フェスを目的に息子が帰ってくる」など、応援して下さる声があった。初めの年は騒音による苦情もあったが今年は無く、事前にあいさつをしたことで、良い関係づくりが出来たと思います。

(加藤委員長)

フェスや同時開催されたワークショップのクオリティが高く、私も実際に訪れてみて、とても満足しました。しかし一方、定住ブースはなぜ不人気かと問われると、私は単純に、このイベントには移住定住を考える層が来ていないからだと思います。その層が来にくいなら、工夫が必要です。

これはツアーの方にも言えることで、町の人と協力し、エッジが効いたとがった案を考え、「魅せる」工夫があると良いと思います。

(林委員)

ターゲット層の設定は重要です。先ほどの特産品にしても、有名なグラフィックデザイナーに商品パッケージを作ってもらうなど、フェスの参加者に言語を合わせていくと、販売もしやすくなると思います。加藤委員長の言うように、クリエイティブに考えていくことを検討してみてください。

(高嶋委員)

こんな話があります。とある音楽フェスイベントで、特産のお茶葉が完売しました。音楽とお茶葉という異色な組み合わせですが、商品名を「ロック茶」にし、「叫ぶ」「飛ぶ」というキーワードをキャッチコピーに入れたところ、完売したそうです。このように、参加者に言語を合わせることは重要だと言えます。

(林委員)

インスタ等へ投稿したくなるような、撮影したい欲求をかなえる工夫も良いと思います。加えて、今年は雨で入場者が減ったとの事だったので、雨で参加を見合わせた人に向けた写真の発信を、工夫されると良いと思います。

(加藤慎康氏)

こういったノリのあるイベントの時に、定住という固い話をしはじめると、膨らんだ構想が崩れてしまうのは否めません。究極は、自己財源でどこまでやれるのか、ということに尽きると思います。その意味で、定住という関わりを切ってしまうのも、1つの成功率を上げる手法ではないかと考えます。

規模の大きさよりも、RAINBOW CHILD 2020の本質を尖らせた方が、良いブランディングになるように思います。

(担当)

定住というジャンルが、RAINBOW CHILD 2020にとって窮屈だと思ったことはありません。ただ、定住というキーワードをきっかけに、街を盛り上げるような子どもたちが来たら良いなと思います。来年度は美濃加茂市のとある店舗でプレイベントをやる、など当日以外でも盛り上げられたらと思います。

(加藤委員長)

この事業は14事業の中でも一番尖っているので、RAINBOW CHILD 2020に沿った発信をしてほしいと思います。

(担当)

そうですね。せっかくこの地域を知ってもらえるきっかけがあって、もったいないと思っているので、町の人に関われるアイデアがあればと思います。

その理由として、今年は町民の入場を無料にしたのですが、昨年度よりも町民の来場者が少なかったという現状がありました。思えば、町民に関われる催しが少なかったように感じます。ですので、次回はキッズダンスの発表会を行うなど、関われる機会を用意できたら見に来てもらえるのではと考えています。

(加藤慎康氏)

それならば、「町民が何をやっても良い」ブースを作るのはどうでしょうか。

(加藤委員長)

確かに、余白は大切ですね。ただ、なんでもありにしまうと、この尖った雰囲気は薄れてしまうので、その舵取りが肝心になります。そのイベントだけの別動隊を作ってそこに任せる等、本隊と別部隊と一緒に動けるのが理想だと思います。

■みのかも魅力発信！名古屋交流拠点事業（主体：美濃加茂市 産業振興課）

【報告内容】

- ・前年度の反省を活かし、夏季に名古屋パルコでイベントを行い、7つの体験プログラムを企画した。しかし、夏の催事は、企画から開催まで期間が短く、周知活動が大幅に遅れてしまったため参加者が思うように集まらず、2つの実施のみになってしまった。
- ・昨年度からつながりのある「K E L L y」とタイアップし、日帰り旅のコーナーに情報を掲載してもらった。
- ・またK E L L yに秋のよくばりツアーを掲載したところ、1ヵ月前に定員40名が埋まり、当日は当日キャンセルがあったものの、38名の方がツアーに参加した。
- ・春のプロモーションとして、昨年度人気だった酒蔵見学を行う。今回は2コースに分け、PRには、昨年度

からつながりのある Sake' s Kitchen さんを活用する。

・これまでの結果として、体験プログラムの実施や、開催時期による周知について課題が残った。結果を踏まえ、今後も移住定住につながるPRを実施したい。

【協議内容】

(加藤委員長)

秋のよくばりツアーのアンケートはありますか？

(担当)

実は本日アンケート結果が届いたばかりなので、まとめる作業はこれからになります。内容を見てみると、モニターツアーということで金銭的にお得感があって、参加する人が多いようです。ツアー訪問場所については、五宝滝やヤマキ農園が良かったと答える人が若干多い程度ですが、どの場所も人気で、参加者の満足度は高いようです。

参加者のリピート率も高く、人に紹介したいとの声もあります。今後は、このクチコミをどう広げていくかを考えていく必要があります。

(高嶋委員)

他の事業で発掘した魅力を伝えられるよう、コラボレーションできると、さらなる圏域の魅力を発掘できると思います。地域の人や地域団体と一緒に体験プログラムを作るなど、スキカモを通して企画することで、もっと実施出来る幅が広がりそうです。

(担当)

そうですね。夏に開催した7つの体験プログラムについては、委託先の案ではなく、各市町村から挙がってきた企画でした。美濃加茂市では、里山再生プロジェクトを担当している農林課が、その事業の一環で森の幼稚園を主催しており、普段は圏域内の子どもたちを対象としているのですが、今回は特別に名古屋圏の子どもたちを対象に実施しました。町村については、民間団体が既に実施しているイベントを入れたり、このプログラムのために新規に企画されたりしていたようです。ただ、スキカモを通して申し込みが無かったと聞いています。

(岸田委員)

自分たちで企画した場合と、K E L L y と一緒に企画した場合の差はどうでしょうか？

(担当)

今回の体験プログラムは美濃加茂市だけの実施であり、町村については細かな話を聞いていないので、判断が難しい所です。ただ、今回企画したローゼルパフェのローゼルは、この事業に関係なく最近地元で注目されている植物で、秋のよくばりツアー時にはNHKが取材に来ていました。

このように、地域で旬になっているものをツアーに取り込むことを考えています。

(林委員)

絶対値を上げる工夫はされていますか？ この事業では再訪率を高める事が目標となっていますが、その割に、事業進捗評価シートでは連携町村からの意見を読むと、温度差があります。夏の田舎体験プログラムは、

まさに定住事業であるにも関わらず募集が無かったということは、目的がズレているか、PR不足かと思います。

(担当)

はい。まさにPRが課題であることに尽きます。夏のプログラムはチラシの発行から実施までの期間がとても短く、情報発信の方法に大きな課題を生みました。

ただ、目的の方向は間違っていないと考えます。定住というとテーマが重たく、簡単には食いついてもらえません。そこでライトな内容で気軽に参加してもらえることで、実際にこの地域を訪れてもらい、その中で魅力に気づいてもらう事が良いと考えているからです。

(林委員)

であるなら、なおさらターゲット層を分けたツアーを企画された方が良いと思います。再訪率を高めるなら、ビギナー向けのツアー、リピーター向けのツアー、移住定住を考えている人向けのツアーなど、戦略的に組めると良いと考えます。

(担当)

そうですね。しかし、白川町が主体で行う「名古屋市民をみのかも定住自立圏へ招くツアー事業」は、まさに移住定住者向けのツアーなのですが、参加者が少なかったという報告を聞いています。その意味において、PRの仕方等、共通の課題があると思っています。

(高嶋委員)

ツアーに参加した人に、白川町のツアー事業の情報を提供していますか？

(担当)

いいえ、していません。

(加藤委員長)

それは情報提供した方が良いと思います。事業進捗評価シートで、連携側から費用対効果に関して言及されているように、市町村で温度差があるのならば、事業内のつながりを大切にして、参加者にもう一度来てもらえるような仕掛け作りが大切だと思います。

(岸田委員)

同意します。例えば連携する2つの市町村で1つのツアーを組んでも良いと思います。

(加藤慎康氏)

この地域「ならでは」のツアーが出来ると良いと思います。そのツアーに参加した人に、次のツアーの予約をその日にしてもらえるようになると、リピート率ももっと増えると思います。

昨年活用したインフルエンサーも、1度だけではなくもう一回活用できれば良いと思います。

【報告内容】

- ・今年度、森林環境税の補完事業として伐採後の破砕等を実施した面積は8.36ha。
- ・広葉樹の苗木を生産するため、アベマキやコナラのどんぐり拾いを地元高校生が実施し、苗木生産の学習を行った。
- ・里山整備時に伐採される竹資源を使った竹チップは、抑草効果の敷材として検証実験を進めており、将来的に販売を予定している。現在、農業団体の協力の下、畔や農道に撒いてもらっている。
- ・日本昭和村は来年指定管理先が変わるが、里山の湯は残すとの事で、湯を沸かす燃料として、里山整備で生産した薪を使ってもらえないかを交渉する予定。
- ・11月の環境フェアは無事に終了した。薪割りや間伐材を使った木工教室、苗木の配布を通して事業を知っていただけた。
- ・先日、住民主体で里山整備を行う団体が1つ増えた。
- ・里山整備を地元の人が続けていく事により、維持管理された里山が観光資源になり、算出された伐木や竹が里山資源となり、整備されることで野生動物との境界が生まれることによる鳥獣被害の減少が期待される。
- ・里山整備は、まるでエクササイズをしたかのように大量の汗をかく作業である。これを逆手にとって、「里山エクササイズ」と称し、健康増進のために運動をしたいと考えている都会の人たちを呼べないかと思っている。スキカモ等と連携し、ツアーに盛り込めたらと考えている。

【協議内容】

(岸田委員)

里山整備を行う団体は、現在いくつあり、それぞれどの年代の人が、何名関わっているのでしょうか？

(担当)

この事業は、美濃加茂市と坂祝町、富加町、川辺町、七宗町の5自治体で行っています。今までは各自治体で1つずつありましたが、先日美濃加茂市でもう1つ増えたので、現在では6つの団体が実施しています。各団体は1つの集落で構成されることが多く、10名~20名の住民が所属しています。定期的に何度も整備を行うという計画ではないのですが、どの団体も次回もう一度実施しよう、という認識で動いています。年代は主に年配の男性で構成されています。

(岸田委員)

一度の整備で産出される竹チップの量はどのくらいですか？ また、1回の作業にどのくらいの人が参加し、時間はどれくらいかかるのですか？

(担当)

「トンパック」という大きな袋があるのですが、2~3袋はとれます。実施する時は10名前後が参加し、休憩を入れながら作業しても、午前中(3時間程度)までの作業が肉体的に限界です。これを年2~3回実施します。

(岸田委員)

たくさん量の竹チップが取れるのですね。一般家庭用に小分けで販売する予定はありますか？

(担当)

今のところ、小分けでの販売は考えていません。自治体などの大きな単位で、草刈り後に抑草の敷材として活用してもらう事を想定しています。

(加藤慎康氏)

せっかく6つの団体があるので、整備前と整備後を比べたコンテストを行ってみてはどうでしょうか。私も整備前と整備後の様子を見ているので、景観がすごくよくなった場所を知っています。そういった場所に来てもらって、興味のある人は整備について学びの講座を行うことで、整備する人を増やしていけると思います。コンテストを行うことで良い意味で競い合うようになれば、作業に面白さも出てくるので、竹林後の楽しみも増えると思います。

(加藤委員長)

竹と言えば、竹あかりアートが近年話題になっています。せっかく実施するのなら、話題になるような、ものすごく大量の竹を用意してみる事も手だと思えます。圧倒されるような景色になればインスタ映えしますし、若い世代や子どもを持つ世代も集まりやすくなります。イベントを実施するのなら、「見に来てもらう」ことを前提として実施された方が良いと思えます。

(高嶋委員)

里山整備や苗木育成など、来てほしい層があると思います。一辺倒に周知するのではなく、情報発信先の年齢層を変えてみてはどうでしょうか。例えば先ほどの「里山エクササイズ」は、都会の人よりも地元の人をターゲットにし、健康増進を兼ねて周知した方が集まりやすいかもしれません。どんぐり拾いは子どもたちが大好きで得意としていることなので、高校生だけではなく、子どもたちも関わると良いと思います。

また、大企業はCSR活動として植林を行うところが多くあります。そういった層に向け、親子で植林に参加していただくような工夫をすることも有効だと思います。

■ K i s o ジオパークにぎわい創出事業 (主体：美濃加茂市 土木課)

【報告内容】

・坂祝町と連携し、木曾川河畔で賑わいを生み出す事業を行っている。今年は12のイベントを企画。そのうち、3つが定住の予算を活用している。全体を通して、民間団体が企画したイベントも多く、イベントをしやすい場所として中之島公園の存在が定着しつつある。

・定住の予算を活用したイベントは、「川と森の勉強会」「きそがわアートの学校」「川のリスクマネジメント」の3つ。勉強会は費用面やその広がりについて手ごたえを感じている。中之島では日頃からボランティアをする男性がおり、彼をきっかけにボランティアが増えたり、他の課がイベントに参加するなど、人やこの場所に対するファンが増えていることを感じた。きそがわアートの学校では、参加者にヒアリングしたところ、都市圏からやってくるコアなファンが多いようだ。

・現在、中之島公園はリニューアルに向けてビジターハウスを建設しており、公園を含めて愛称を募集している。平成30年春にオープンの予定で、レジャーやスポーツ、フィットネス等、幅広く活用できる。

・この事業は民間の力を借りて実施しており、徐々にだがこの先のビジョンが見えつつある。都市圏とのつながりという定住の柱に向け、名鉄今渡駅が近いという強みを活かし、坂祝町を含め、近隣の中山道や商店にお金を落としてもらう工夫を、今後は考えていきたい。

【協議内容】

(岸田委員)

事業進捗評価シートの点数は、12個の催事すべてを対象としたものですか？

(担当)

今回、ソフト事業については12個すべてを対象として評価をしました。

(加藤委員長)

沢山の事業がありますが、定着の手ごたえを感じていますか？

(担当)

はい。ただ、同じ事業を繰り返しているの、飽きがこないよう変えていく必要性はあります。

(加藤委員長)

MI ZUBERINGというソフト事業について教えてください。この実行委員には行政も関わっているのですか？

(担当)

はい。市長やまちづくり課の加藤慎康さんも実行委員の1人です。国交省の「ミズベリング・プロジェクト」がらみで、せっかくなのでプレゼンターを呼び、参加者にはお菓子を持参してもらって、夜の水面を楽しむというイベントを、7月と10月の2度開催しました。今後はプレミアムフライデーの時に実施できないかと計画しています。

このMI ZUBERINGと川と森の勉強会は、動画にしました。よい業者と巡り合えたおかげで、良いPRの素材になっています。

(加藤慎康氏)

坂祝町とイベントをコラボレーション出来ると良いと思います。

(担当)

そうですね。坂祝町とはハード事業の面で連携していますが、ソフト事業でのイベントについても常に情報提供しています。ただ、実際に会場へ来た参加者のうち、どれくらいが坂祝町民かまでは分からないので、今後はそのあたりも検討したいと思います。

プロモーション動画についても「一緒に作らないか」と坂祝町には声を掛けているのですが、負担割合や動画の構図を考えると、それぞれで作るのがよさそうです。

(加藤委員長)

イベントは、坂祝町でもサテライト会場を作れないでしょうか？

(担当)

今までこちらの会場だけで手一杯で、手が回らない状況でしたが、おそらく出来ないことは無いと思います。今後、中之島公園に拠点が出来ます。これを起点に自転車やウォーキング等のモデルコースを作ろうとして

います。そういったツアーやプロモーションを発信したいと思います。

(加藤慎康氏)

NPO団体が使いやすい場所だと感じます。だからこそ、もっと使いやすい場所にしてほしいと思います。

■おんさいEXPO事業（主体：富加町 おんさいEXPO実行委員会）

【報告内容】

- ・今年度は昭和村に2か所、富加町に1か所の3会場を予定していたが、台風接近に伴う影響で、催事自体を中止することとなってしまった。
- ・事前周知として、美濃加茂市の2つの中学校の吹奏楽部に演奏に来ていただくこととなっており、2校の生徒に全員配布し、ポスターを100箇所掲示、フリーペーパー7種に情報を掲載した。
- ・出場予定チームは40組で、今年度「日本ど真ん中祭り」で大賞、準大賞したチームも含まれていた。
- ・今年度はど真ん中祭り実行委員会（財団法人にっぽんど真ん中祭り）から後援をしていただけた。
- ・チラシやポスターの準備に時間がかかっており、また雨天時の会場整備等、課題も多く残った結果だった。

【協議内容】

(加藤委員長)

事業進捗評価シートを見ると、美濃加茂市側からの厳しい意見が目にとまります。定住という面に置いて、この事業はどのような効果があると考えていますか？

(担当)

おんさいEXPO実行委員をしている半布里のメンバーの中には、東京から通う人や、富加町や美濃加茂市に移住してきた人もいます。その意味で、移住に対する一定の効果があると思っています。

確かに傍から見ると自己満足に思えるかもしれませんが、年々、このイベントの魅力が高まりつつあります。皆さんと一緒に楽しめる催事を目指したいと思っています。

(岸田委員)

「おんさいEXPO」という響きだけ聞くと、催事と地名が思い浮かばないというのが正直な感想です。名前の由来はあるのですか？

(担当)

「おんさい」というのは、もともとこのあたりで使われていた「いらっしゃい」という意味の方言で、そこから命名しました。

(加藤慎康氏)

名前を聞いて「あ」と思う人がどれだけ増えるかが鍵だと思います。その意味で、インパクトがある名前や、富加等の地名が入っていると良いと思います。

(岸田委員)

移住したメンバーの正確な数字を教えてください。

(担当)

手元に資料が無いので正確には分かりませんが、思いつくだけでも5名程度はいます。

(加藤慎康氏)

台風の接近による中止の判断は苦渋の選択だったと思いますが、当時の心境はどんなものでしたか？

(担当)

中止を決めるための会議を3日前の木曜日に行ったのですが、正直、ギリギリまで実施したい思いでいました。しかし、当日の天候を見て、判断はやはり正しかったと納得しました。

(高嶋委員)

失礼な物言いかもしれませんが、どまつりに関わっていた者として、よさこいで外から人は呼べないと思っています。よさこい踊りで人を呼ぶならば、実行側のメンバーにどれだけ移住者がいるかがポイントだと思います。交流人口を増やすには、この町にやってきた踊り子がどれだけ体験をし、どれだけ富加の町の人々と触れ合えるかといった機会を、どれだけ作れるかが、この町の魅力の発信や移住してもらうことに繋がると思います。

「踊り子が来るから他の人も見に来てほしい」ということではなく、住民と踊り子がいかに接点を持ち、関わられるかという仕組みを作る事が大切だと思います。前夜祭など、その日だけにこだわらない工夫を作ると良いと思います。

(加藤慎康氏)

同意です。踊り子の方が会場から会場へ移動する際、住民と関わられる工夫をする等、この地域と踊り子に関わる工夫があることが鍵だと思います。

(岸田委員)

規模を多少縮小したとしても、実行する気持ちを大切にしていきたいと思います。

(林委員)

オリジナリティがあるので、動画コンテンツや他言語化等を発信されると良いと思います。特に今回は天候不良で中止になってしまいましたが、そういった場合でも発信できるものを準備されると、無駄にはならなくなると思います。

(加藤慎康氏)

未執行分の予算は繰越されるのですか？ プロモーション動画を作れる良いと思ったのですが。

(事務局)

原則、今年度予算を来年度に繰り越すことはできません。未執行予算については、両者の協議・同意の上で執行することは可能です。

■名古屋市民をみのかも定住自立圏域へ招くツアー事業（白川町：白川観光協会）

【報告内容】

- ・今年度は東白川村が新たに加わり、11月初旬現在、13回の企画をし、9回実施した。回数が増えたことで都市圏とつながる機会を増加することが出来た。
- ・未実施となったツアーもあるが、圏域の魅力を体験する場や地元住民との交流できる機会が生まれ出した。
- ・今年度の婚活ツアーは、タウン情報誌などへ幅広く広報したのだが、応募が少なく未実施となってしまった。しかし、昨年度実施した婚活ツアーで成立したカップルのうち、1組が結婚され、白川町住民になっていただけた。
- ・今後、ツアーの中核を担っていた地域おこし協力隊が、その任命期間を終えることで、企画に不安がある。また、催行できなかったツアー内容を分析し、参加者のニーズを見極めることが必要との課題が残った。

【協議内容】

（岸田委員）

全13回のツアーを見ると、学生を対象としたツアーが多くみられます。どのような意図があるのでしょうか？

（担当）

もともと、地域おこし協力隊の活動で名古屋圏の学生とつながりがあり、その活動にプラスする形で今のツアー事業が生まれました。

（林委員）

実際に婚活でカップルが生まれ、定住された実績は素晴らしいと思います。

別件ですが、平成30年度の予算が手元の資料にありますが、その内訳が「負補交」でまともになってしまっています。詳細な予算根拠を教えてください。

（担当）

ツアー経費はツアー実施と参加人数による乗算で、各市町へ負担請求しています。ツアー参加者本人から徴収する金額と実際にかかった経費の差引の合計を、各市町村で按分し、負担金として請求しています。

（加藤委員長）

農業体験ツアーを通して、実際に就農された方はいますか？

（担当）

まだ結果には結びついていませんが、ツアー内では実際に白川町へ就農移住された方と、本音で語り合う内容であったので、手ごたえはあると思っています。

（加藤慎康氏）

参加者のその後の様子については、企画に参加した農家が、直接話を聞いているかもしれません。

（加藤委員長）

そうですね。効果測定をするのであれば、実施側としてそこを把握された方が良いと思います。
質問ですが、就農体験は年1回の開催ですが、増加させる予定はあるのでしょうか？

(担当)

本音を言えば2回開催したいところですが、名古屋圏でこのツアーに協力していただいている、就農の仲介をされている人の助言で、1回の実施にしています。

(加藤慎康氏)

私はその仲介人の方を知っているのですが、あまりその人に頼りすぎない方が良いと思います。就農先の査定をするお仕事もされているので、あっけなく別の地域を勧めてしまうこともありえるからです。それであれば、仲介者との関わりはきっかけ程度に留め、せつかくの黒川という地域ブランドがあるので、自信を持って発信した方が良いと思います。

(加藤委員長)

学生ツアーは集客力がありますが、あくまでも一過性にすぎないので、やはり婚活や就農によるツアー参加者をどう増やしていくかが鍵となりそうです。それが一番早道になるのではないのでしょうか。

今回未実施のツアーがありますが、なぜ実施できなかったのでしょうか？ 日程が悪いのか、内容が悪いのか、分析をされていますか？

(担当)

1つ言えるのは、集客するための周知媒体が違うのが原因ではないかと思っています。今回のツアーは、全て周知媒体が違います。その中で、12月に行ったツアーは中日新聞に掲載していただいたのですが、とても多くの応募がありました。婚活ツアーはたくさんのフリーペーパーに載せたのですが、未実施となってしまったので、新聞の影響力の強さを知りました。このように、現在は、周知することに適切なメディアを見定めている状況です。

(加藤慎康氏)

白川町の黒川地区にある和ごころ農園では、菜園と家庭科実習を組み合わせた取り組みをしております(※)、「女城主直虎」に出演しているとある役者が、家族でこの取り組みに参加し、黒川まで通っていると聞いています。こういったことをPRすべきかと思います。

名古屋圏の学校で求められているプログラムを実施しているので、こういった企画を小さくても良いので実施できたらと思います。

(※) 和ごころ農園内で実施する「エディブル・スクールヤード」の取り組み。エディブル・スクールヤードとは、菜園と家庭科実習を横断的に組み合わせる事によって、荒廃した学校を蘇らせたプロジェクトの事。和ごころ農園では、「EDIBLE KUROKAWA YARD」と呼称している。

来年度は、ターゲットを明確にした方が良いと思います。学生なのか、移住者向けなのか、絞るべきなのではないのでしょうか。確かに学生は将来的な効果につながりますが、それ以前にすぐに結果が出る就農や婚活に力を入れても良いと思います。

(担当)

たしかに、婚活や有機栽培の就農は、移住定住に最も近い方法だと自覚しています。しかし、それ以外に集客できる手段がないのが事実です。だから、ツアー内容も確実に来てくれる学生や年配者向けの内容が多く、

これが今の最大の課題だと感じています。

(加藤慎康氏)

ツアーの数減らして、単発よりもリピートに重点置いた方がいいかもしれません。バスを走らせず、車や電車で参加していただくことも検討されても良いと思います。

■生物多様性地域連携促進事業（主体：美濃加茂市 環境課）

【報告内容】

- ・11月5日に日本昭和村で環境フェアを実施し、当日は各市町村の首長および議長に来賓として来ていただきました。今年度は全体で5,000人を超える来場者があり、過去3年間の入場者数の推移を見ると、圏域内住民の参加が増加傾向にある。
- ・アンケートでは1割が名古屋方面から来た参加者で、9割が「また来たい」との返答だった。来年度、日本昭和村の指定管理者が変わるが、引き続き同所で開催する予定。
- ・レッドデータブックの作成に向け、今年度は調査の最終年度となっている。来年度は岐阜大学と地元団体の協力で作成を計画している。
- ・今年度、文化振興課の協力の下、文化の森で「このあたりの自然」という企画展を実施。約2,600人が会場に訪れた。
- ・今後はレッドデータブックの作成とその進捗を環境フェアで公開することによって、地域の自然について広く周知していく予定。

【協議内容】

(岸田委員)

アンケートで9割が「また来たい」と答えたことについて、この環境フェアの評価の高さが分かりました。なぜまた来たいという返答が多かったのか、分析されていますか？

(担当)

アンケート内の自由意見を分析すると、無料やそれに近い料金で参加できる体験コーナーが多かったことが、挙げられていました。出展ブースは地元の企業や団体によるもので、どのブースも来場者にできるだけ負担の無いよう配慮していただけました。その結果、特に子ども連れの来場者にとっては、満足していただけたのでは、と分析しています。

(岸田委員)

レッドデータブック作成の進捗については、環境フェア内でどのように周知しているのですか？

(担当)

調査を行っている「美濃加茂自然史研究会」という団体が、出展ブースを出しています。その中で、亀や魚などの生態の展示や、ブック作成の進捗についてパネル展示をするなどを行っています。

(林委員)

他の自治体と比べて、とてもまじめに実施されているという印象を受けています。だからこそ、少し硬いこ

とが惜しいと感じています。まじめに周知すれば、あまり広がりがない分野であるため、子どもたちに関心を持ってもらう事が大切であるので、例えば「ポケモンGO」のような位置連動アプリを活用するなど、興味を持ってもらう事にも取り組まれると良いと思いました。

(加藤慎康氏)

この事業は、名古屋から一番人を呼び込める事業だと思っています。この地方は東と西の境目で、多様な生物が生息しています。本当に理解のある人に、地域を案内したり見てもらう事ができたなら、この地域はとても住み良いという評価にもつながります。

私は、この調査に関わっている人を知っているのですが、彼らからも、理解のある人を対象にツアーを組みたいという声を聞きます。ただ、来ていただくことにふさわしくない人は来てほしくないという課題もあります。閉鎖的でも良いので、自然環境に真に理解のある人に参加してもらえることが出来ると良いと思います。

併せて、地域の人に対しても、保全に対する理解を深めてもらうような取り組みが出来ると、自然環境における問題が一気に解決できると思います。

また、環境フェアの開催日を、次週に行う美濃加茂市の市民まつりと同日にしても良いのではないのでしょうか。環境フェアを昭和村で実施するその理由が、集客だけであるなら、参加する人も、毎週昭和村に足を運ぶ手間が減ると思います。もともと環境フェアは園内で、市民まつりは園外で開催するので、エリアで連携できると良いと思います。

(加藤委員長)

私もこの事業はとても良い事業だと思います。だからこそ、学者ではない普通の人や子どもたち向けに、情報をシェアできる工夫があると良いと思います。分かりやすい動画や媒体など、伝える術が重要なのだと感じます。子どもたちにとって故郷の自然は大切な資源なので、ルー大柴を呼ぶことも良いかもしれませんが、伝える方に資金を投入した方が良いと感じます。

(加藤慎康氏)

実際に調査エリアを歩いたことがあります。野草の実を摘んで食べる事も出来るというこの環境は、とてもよいことだと思います。

(岸田委員)

「このあたりの自然」企画展で使ったイラストはとてもセンスが良いと思います。慎康さんのお話も個人的にとても興味があり、ぜひ行ってみたいと感じました。この気持ちを子どもたちに教えてあげたいと思います。形として残してもらいたい。

■地域情報放送事業（主体：美濃加茂市 秘書広報課）

【報告内容】

- ・サイマル放送用のアプリのダウンロード数は、7月末で10,368件、9月末で11,102件にまで増加した。
- ・市が定期的に行っている「市民満足度調査」で、FMららとCCNetの認知度について調査をした。
- ・町村では従来から住民や企業にパーソナリティやゲスト出演していただく等の工夫があり、認知度が高い地域もある。美濃加茂市では市長番組を、より市民が参加できるように、毎回市民をゲストに迎えるスタイルに変更した。

- ・前回助言頂いたことを踏まえ、今までの放送分（音声のみ）をYOUTUBEで視聴できるようにした。
- ・今後は、災害時の緊急情報伝達手段として、緊急時にFMららを活用するシステムを構築する予定。まずは美濃加茂市が先行導入し、町村に拡大できたら良いと考えている。
- ・CCNetでは、番組内でお互いのイベント情報をPRするなど、連携を図っていく。

【協議内容】

（岸田委員）

市民満足度調査の結果を教えてください。

（担当）

市民1,500名を無作為で抽出し、562名から返答がありました。FMららの認知度は18.1%、CCNetは23.5%という結果でした。今後も引き続き、定点観測していきたいと考えています。

（加藤慎康氏）

アプリのインストール数がとても多いように思いますが、何か理由はあるのでしょうか？

（担当）

推測の域ですが、今年は台風など水害が多かったことが原因ではないかと思います。というのも、ちょうど7月～9月のダウンロード数が増加したからです。そのため来年度は、今年と同じ増加の仕方をするとは限らないと思います。

このアプリは、緊急時に文字でアラームが表示されるので、そういった「困ったときのため」にアプリを入れてくれる人がいるようです。

（岸田委員）

ダウンロード数の数値は、圏域住民のうちどれくらいの割合かは分かりますか？

（担当）

あくまでもダウンロード数であり、人によっては複数のデバイスにダウンロードしていることもあり得るため、母数の実態は不明です。実態を図ることは難しいのですが、事業内容自体が圏域内の充実を主としているので、圏域内でダウンロード数を増やしていきたいと思っています。

（加藤委員長）

リアルタイムで人気のコンテンツはあるのでしょうか？

（担当）

リアルタイムモニターが局に設置されていないので、リアルタイムでどの番組が視聴されているのかは不明です。

（加藤慎康氏）

他の市町の番組を別の市町村の人が見てくれる工夫として、例えば〇〇町出身の××町住民を取り上げるコ

ーナーを作る事も手だと思います。

(担当)

そうですね。最近、美濃加茂市の枠で他の町村のイベントを発信し始めました。町村側では、防災訓練の時にこのアプリのことを周知したところ、ダウンロードしてくれたという報告も聞いています。美濃加茂市では市民まつりの時に、FMからのQRコードを掲示していましたが、まだ大々的にはやれていない状況です。

(加藤慎康氏)

事業進捗評価シートを見ると、番組やラジオを戦略的に活用している自治体と、そうでない自治体との温度差が浮き彫りになったのではないのでしょうか。

■交流の場の提供とレッキーマラソンコース沿いの環境整備事業（主体：七宗町 若葉会）

【報告内容】

- ・マラソンコース沿いの整備は、多少の遅れはあるものの、計画通り実施できた。12月10日にレッキーマラソンが開催され、参加者のうち整備したコース沿いを走る374名のランナーに、アンケート用紙を配る。
- ・カワニナの養殖については、三和町の「ホテルを守る会」と連携し、両小学校の児童らとともにホテルを通じた交流事業を実施できた。
- ・七宗町神淵に、ようやくカワニナの養殖場が完成した。今後はこちらに三和小学校児童を招待し、交流会を行いたい。

【協議内容】

(岸田委員)

ランナーに配布するアンケートには、どんな項目がありますか？

(担当)

性別や年齢、居住地やマラソン参加回数その他、コースの全体の印象や、特に民家の無い地域の整備を行っているので、そのあたりのコースの印象と沿道の応援等についてお尋ねする予定です。

(林委員)

マラソン参加者と団体が定期的に交流を持つ機会がありますか？

(担当)

団体として直接はありませんが、マラソンの主体である行政が、ランナーに対してインタビューするなど、一定の交流をしていると聞いています。

(林委員)

せっかく現場に来ていただいているので、せめて団体がこの場所を整備したということについてPR出来たら良いと思います。

(加藤慎康氏)

普段の交流のイメージは、地域の皆さんを相手にしているのか、それともレッキーマラソンに参加する人を相手にしているのですか？

(担当)

交流事業としては、美濃加茂市のホタルを守る会のことを七宗町に教えてもらいました。もともと私たちも河川を綺麗にしたいと思っており、それを相談したところ紹介してもらいました。三和町は私たちでも良く知るホタルの有名産地で、神淵小学校の生徒を連れて行こうと思い、学校間の交流が生まれました。

(加藤委員長)

団体のメンバーの増減はありますか？

(担当)

実は不幸がありまして、1名減ってしまいました。来年度は+1名をして12名にしたいと思っています。

三和町のホタルを守る会は、町民全員が会員で、毎回40名程度が活動に参加しています。子どもも会員なので保護者も参加するなど、年齢層も様々な様です。

■でか金を媒体にした地域づくり事業（主体：七宗町 でか金倶楽部）

【報告内容】

- ・現在水槽を設置した数は6か所で、近く1か所増える予定。金魚の成長に合わせて既存の水槽を、1つ大きい水槽に変更した。
- ・10月末に「でか金自慢大会」を開催した。PRの効果か、遠方から多くの来場者があった。
- ・水槽の巡回数が150回を超えており、水槽管理についての対応が課題となっている。また、生体販売についてもメンバーの体制が整わず、有効策が見当たらないことが課題になっている。

【協議内容】

(加藤委員長)

でか金自慢大会の出場者は何名いたのですか？

(担当)

昨年度は20名でしたが、今年度は天候に恵まれず10名の参加となりました。当日、一番遠くから来た参加者は恵那市在住の人でした。

(岸田委員)

自慢大会の来場者数は何人いましたか？

(担当)

当日は、町が主催する「ふるさと祭り」の一画で行ったため、でか金自慢大会だけに対する来場者数は分かりません。

(岸田委員)

金魚の無料配布数を教えてください。

(担当)

400匹以上500匹以内です。100名以上には配布できました。今年は豪雨による稚魚の河川流出が起きてしまったので、美濃加茂市の市民まつりで配布する量が準備できませんでした。

(岸田委員)

水槽を設置した施設への巡回数がとても多いのですが、何か対策や工夫はありますか？

(担当)

この回数は、メンバーが連絡を受けて実際に現場へ出動した数を合わせたもので、内容は簡単に解決できる案件から、専門知識が必要な案件まで、程度はバラバラです。淡水魚や水槽についてまったく知識の無い人からの要請だと、わざわざ出動することでもないような案件もあります。私たちもどう対応すればよいか、模索している最中です。

(加藤慎康氏)

金魚と言えばアートアクアリウムが有名ですが、そういった演出を行うなどして話題を作ることに集中した方が、輪が広がりやすいのではと思います。また、こういった「和」を連想させるものは、来日観光客に受けが良いので、地域は外れますが犬山の城下町等、外国人観光客が多い地域に「七宗産」ということが分かるように展示することも有効だと思います。

これは配布する時も、「七宗」のものだとわかるようにすると、SNSなどに写真を載せてもらった際、一緒に写してもらいやすくなるので、よりPR効果が高まります。

(担当)

そうですね。実際「アクアトトぎふ」に展示した際、それを見た来場者からの反応がとても大きかったと記憶しています。

(加藤慎康氏)

アクアトトの来場者にも、記念で配布するようなイベントがあってもよさそうです。

ところで、稚魚の配布の他に、有料販売はされているのでしょうか？

(担当)

今のところ、無料配布を行っているだけで、販売体制が出来ていません。ショップからは買い取りのオファーが来ているのですが、店舗に卸すだけの生体数を確保できていないので断っています。

(市民協働部長)

配布した金魚の生存率はどのくらいなのですか？

(担当)

全部は把握していませんが、配布した相手から生育状況や写真を見せてもらう等の報告は受けています。「でか金倶楽部」のホームページに「我が家のか金自慢」という、誰でも投稿できるコーナーはありますが、全

員が投稿する訳ではないようです。

(岸田委員)

その投稿フォームに、金魚の育成日数や金魚を貰った場所等を記入する欄はあるのでしょうか？

(担当)

投稿する人は、育成の日数について書いていただいています。

■「龍神さんの棲む箱庭のまち」まちづくり事業（主体：七宗町 飛驒川流域まちづくりの会）

【報告内容】

- ・おたすけ部会は目標85件のうち、現在実績が88件となった。活用していただく理由は、通院するための送迎が殆どで、草刈りの依頼が4件あった。
- ・上麻生駅や駅周辺に納古山登山道への案内看板を設置した。
- ・登山者の人数把握は難しいが、先日、平日に駅前を歩いていたら、登山装備を整えた数名の人が、看板を頼りに登山口へ向かっている様子を見た。

【協議内容】

(加藤慎康氏)

昨年度見せていただいた、団体の拠点の建物はどうなったのでしょうか？

(担当)

今年は国道の工事の為、今期は使用することができませんでした。ちょっとしたミーティングができたり、機織り機を使った手みやげ品を作る予定でしたが、実施できず残念でした。

(加藤慎康氏)

冬期に開催した、三和町側と七宗町側の両側から登山するというイベントは好評でした。もうすこしPR出来れば良かったと思います。

(担当)

そうですね。三和町側のルートは少し難しいので、同時山頂到着ができず残念でした。今年度も3月に開催を考えており、1月頃から話を詰めていく予定です。納古山は、名古屋圏から登山者がよく来る山なので、周遊ルートを作って参加者を増やしたい思いはあります。

(加藤委員長)

送迎サービスでは、目標よりもたくさん出動したようですが、町の人々の反応はどんな感じですか？

(担当)

好評をいただいています。新規で会員になった人が19名増えました。

(加藤委員長)

来年度予算の内訳を教えてください。

(担当)

車のリースが45万円で、あとはコンサートの経費や車両のガソリン・保険料が大半を占めます。

(加藤慎康氏)

送迎サービスでは、利用者から料金をいくら徴収しますか？

(担当)

無料で実施しています。ですので、事業経費は寄附と補助金のみで実施しています。

(加藤委員長)

仮に補助金が交付されなかった場合、利用者から好評いただいている送迎サービスをどう続けるのですか？

(担当)

車のリース代が5年間で終了するので、その後は安く車両を買い取れると考えています。そのあとはそこまで経費は掛からないと思います。

(岸田委員)

「龍神さんが棲む箱庭のまち」という事業名について、いつも疑問を持っています。由来などはあるのでしょうか？

(担当)

私たちの団体では「龍神さんが棲むまち」を目指して、そういったイメージのあるまちを各部会で作る事によって、人を呼び込もうとしています。

(岸田委員)

そのイメージの基に事業を展開しているということ、団体のメンバーや利用者に伝わっているものなのでしょうか？

(団体)

そこからスタートしています。

(加藤慎康氏)

その神秘的なイメージを連想させるような工夫はありますか？

(担当)

それを具現化させたものが、キャラクター（タッピー）であり、焼印などで周知しています。

(加藤慎康氏)

そのイメージは、参加者や利用者に伝わっているもののでしょうか？ 指標をどう図っているのですか？

メンバーがそう思っているから「龍神の棲むまち」だと言えるのでしょうか。それとも、住民や利用する人がそう思うから「龍神の棲むまち」になるのでしょうか？

その浸透度を、団体が第3者に伝えられますか？

(担当)

利用者や住民からはアンケートを取れると思います。メンバーは、その思考に賛同して入って来ています。

(加藤慎康氏)

そうではなく、スタートは賛同して入会されているのだと思いますが、その指標は常に追いかけていく必要はあります。

(担当)

数字では表しにくいことですが、私たちが住みやすいまちを作って、住み続けてもらうことが評価だと思っています。ただ、現在はまだ、「龍神が棲むようなまち」という目標まで届いていません。

(加藤委員長)

ネーミングにこだわりを持っているのならば、そのイメージに関わる人全体と共有しなければ勿体ないことだと思います。浸透率の観測が難しいとおっしゃっていますが、エリアに住む人数は限られているので、アンケートは簡単に取れると思います。データを集約することで、浸透率が見えますし、その指標観測はずっと続けていく必要があると思います。

(岸田委員)

正直言って、ビジョンが見えにくく思います。「各部会の活動が、こういったビジョンに繋がっているのだ」ということを、メンバー同士で共有し、言葉にして残しておかなければ、目標がずれていってしまいます。

(加藤慎康氏)

指標が見える化されていたり、そういった指針が明確に残っていると、私たちも「こういった理由で活動されており、こんなに賛同している人が居る取り組みなのですよ」というように、応援や紹介しやすくなります。

(加藤委員長)

地道な活動をされているので、周りに伝えられる工夫を考えていただきたいと思います。

<3. あいさつ>

(定住自立圏推進室長)

本日は長時間に渡り、ご審議いただきありがとうございます。本日の会ではターゲットを設定し、適材適所な発信をしていくことの重要性について、多くの事業でご意見をいただきました。

今後、第3次共生ビジョンに向け、委員の皆様のご意見をお尋ねしたいと考えております。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

(終了)